ARCSⅡとは?

ARCSⅡとは、コンスタントなカーバチャーを持つラインソースであり、WST®テクノロジーを備えています。SB28サブウーファーと共に設置することや、スタンドアローンのフィルシステムとして設置する事も可能です。ARCSの後継機種であり、設置場所が狭い場合でも高いオーディオパフォーマンスや使い易さが求められる、レンタルプロダクションや固定設備をターゲットにしています。

これまでのARCSとの主な違いは何でしょう?

ARCSから改良されている点は下記のとおりです:
・HFとLFにK1のネオジウムドライバーを使用
・音響性能の向上、より高いSPL(140dB)
・軽量化(ARCSよりも7kg軽量)
・AirNetファブリックを使用した新しいフロントグリル(外観と耐久性が向上)

どのようなアンプ/DSPが必要でしょうか?

ARCSⅡはLA8jp/LA-RAKjpによってのみ、ドライブされます。これにより、より優れたフィルタリング、システム保護が確実となり、パフォーマンスの予測が可能になります。

ARCSは製造中止になるのでしょうか?

ARCSは2011年12月31日で製造中止となる予定です。

ARCSⅡはARCSと互換性があるのでしょうか?

ARCSⅡは新しいチューニング用に専用のプリセットライブラリを備えており、K1のLF/HFドライバー用に最適化されています。L-ACOUSTICSはARCSと混合させることを推奨しません。リギング、保護、搬送用にアクセサリーには互換性があります。各エンクロージャーにはカップリングバー2本が付属します。

ARCSからアップグレードするためのキットはあるのでしょうか?

いいえ。フロントグリル/ファブリックの取付けのシステムと、新しいドライバーの寸法が変わっているため、キャビネットに構造上の改造が必要となってしまいます。

コンスタントなカーバチャーを持つラインソースの利点とは何でしょう?

コンスタントなカーバチャーを持つラインソースには下記の利点があります:
・簡単で素早いセットアップ(固定されたエンクロージャー間のアングルは22.5°)。
・中距離のアプリケーションでは、数台のキャビネットでオーディエンスをカバーすることが可能。
・アレーがコンパクトで軽量。視界を遮らない。
・直観的かつ簡単にカバレッジパターンを予測することが可能 C = 60°x (22.5°x N)。
・パフォーマンスを損なうことなく、コスト削減が可能。
・フライングができない条件下での理想的なソリューション。
・距離のある場合でも、音色バランスを整合させることが可能。

典型的なアプリケーションの例は何でしょう?

ARCSⅡをSB28サブウーファーと共に、フルレンジのFOHシステムで使用した場合:
・ロックバンドのコンサート向けの高いSPLと増強された低域コンター
・大きいライブクラブ、コンサート会場、野外イベント。
・35mまでの中距離、典型的な標準として2000人
・L/R、センタークラスター用に様々な指向性のパターンを持つことが可能。

ARCSⅡを大きなFOHシステム(K1、KUDO)のフィルとして使用する場合:
・SB28を使用した際の高いSPLと増強された低域のレスポンス。
・野外フェスティバル、スタジアム・アリーナでのワールド・ツアー
・フロントフィル、サイドフィル、イン・フィル、ディレイとして使用した場合の優れた指向性のコントロール。

FOHにはどのようなレンタルキットがお薦めでしょうか?

L-ACOUSTICSは、FOHのレンタルキットとして、LA8jp 4台でパワリングしたARCS 6台とSB28 4台をお薦めします。

ベステックオーディオ株式会社

本 社　〒130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12　TEL 03-6661-3825　FAX 03-6661-3826
URL.　http:// www.bestecaudio.com
大阪営業所　〒531-0072 大阪市北区豊崎 3- 4 -14 - 602　TEL 06-6359-7163　FAX 06-6359-7164
Email:　info@bestecaudio.com